



NEWS LETTER

全日本ロードレース選手権第4戦スーパーバイクレース in SUGO MORIWAKI CLUB の岡谷雄太選手が開幕戦に続き 2 連勝！



Japan, 17th JUNE 2018 -

6月15日(金)、2018 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦「スポーツランド SUGO レース 2018」が宮城県柴田郡村田町菅生にあるスポーツランド SUGO で開催された。金曜日のフリー走行は6月とは思えないほどの冷たい雨が終始降り続き各チームとも思うように車両のセットアップが進められず苦勞していた。

6月16日(土)

明けて土曜日朝、前日の雨により路面が濡れたままでの予選となった GP-3。どのチームもタイヤ選択に苦勞する中予選スタート。MORIWAKI CLUB の岡谷雄太選手は前後レインタイヤを選び、前日の転倒の影響により序盤は慎重に走行。後半リアタイヤをメディアムソフト系のスリックタイヤに交換してからはリズムを掴み、ぐんぐんタイムを詰めていき一時は3位までポジションを上げ、最終的には1' 39" 249のタイムで予選5番手を獲得。

続いて今にも雨が降りそうな天候の中、JSB予選がスタート。前半から MORIWAKI MOTUL RACING の高橋裕紀選手、清成龍一選手共に順調にタイムを縮めながら1分28秒台で周回を重ねる。

後半になり、高橋選手は予選用タイヤを使用して1' 28" 360のタイムを叩き出し予選3位に浮上。一方清成選手もほぼ同じタイミングで NEW タイヤを使用しアタックするがトラフィックに引っかかり1' 28" 940まで縮めたところで2回目の赤旗中断となり8位までしか上げられない。TONE RT SYINCEDGE4413の星野選手も順調にタイムを縮めて残り10分のところで1' 29" 684で10位までポジションを上げる。その後再スタート後に清成選手はさらにタイムを詰めて1' 27" 818で一時2位までポジションを上げる。トップは残り3分で1' 26" 670までタイムを上げる。最終的に清成選手は4位獲得、高橋選手は6位を獲得。星野選手は1' 29" 272でプライベートチーム勢最上位の11位のポジションを獲得。

GP2予選ではTONE RT SYINCEDGE4413の三原壮紫選手は前半ソフトコンパウンドを使用し1分32秒台で走行。その後予選用タイヤでタイムを縮めるも前日の雨によりドライでの予選用タイヤでの走行時間

不足からタイムを詰め切れず 1' 31" 965 で予選 14 位で終了。OGURA CLUTCH WITH RIDE IN の岩崎哲朗選手は序盤ミディアムソフトを使用、その後 2 種類の予選用タイヤを使用し 1' 31" 729 で 11 番手を獲得。

土曜日午後に行われた JSB 決勝第一レースも気温が上がらない状態で開催。ピレリ勢では清成選手、高橋選手、星野選手共にソフト系コンパウンドをチョイス。サイティングラップがスタート。ここで多重クラッシュが発生し不運にも高橋選手、星野選手が巻き込まれてしまう。レース進行は一旦赤旗中断し、高橋選手は自力でピットへ戻るが星野選手のマシンはダメージが大きく自力でピットへ戻れない状態だった為レッカー車でピットへ戻る。その後チームスタッフが懸命に修復作業を行うがグリッドに着けずスタートに間に合わなかった。一方、高橋選手は T カーで無事にグリッドに着きスタートを迎える。

そしてレーススタート、清成選手は抜群のスタートを決めてオープニングラップは 1 位で通過、高橋選手も 4 位にジャンプアップ。清成選手はそのまま 3 周目までトップを維持。その後 2 台に抜かれ 3 位に落ちるも序盤は 3 位をキープ。高橋選手はスタート後しばらくしてウォームアップ時の転倒による身体のダメージにより徐々に順位を落とし 8 位でチェッカー。清成選手も中盤以降徐々に徐々に順位を落とし最終的に 7 位でチェッカー。一方グリッドに間に合わず遅れてスタートした星野選手は 23 位でゴールとなった。

6 月 17 日日曜日、迎えた決勝日、上空には相変わらず低い雲が立ち込める中、朝のウォームアップがスタート。GP3 では岡谷選手が 6 番手のタイム、GP2 では岩崎選手が 2 番手のタイムを出し決勝での活躍が期待される。JSB では清成選手、高橋選手共に 1 分 28 秒台で慎重にマシンの状態を確認しながら走行し 4 番手、5 番手のポジションで推移。

決勝 GP3 は岡谷選手が 5 番手からスタートしオープニングラップでは 1 つ順位を上げて 4 番手で通過。その後、序盤から 5 台が激しいトップ争いを行うがトップ争いを行っていた内の 1 台がエンジントラブルでオイルを吹いてしまい、その影響でトップ 5 台中 3 台が転倒。赤旗でレースは中断。レースは残り 13 周で再スタート。グリッドは 3 周目の順位となり岡谷選手は 2 番手で再スタート。スタートで 2 つ順位を落とすが直ぐに 1 つ取り返しオープニングラップは 3 位で通過。その後岡谷選手は終盤まで激しいトップ争いを繰り広げる。残り 1 周でコントロールラインをトップで通過。コーナーごとに順位が入れ替わるも冷静に走行し最後のシケインで再度トップに立つとそのままトップを維持しチェッカー。

もてぎに続き 2 連勝となった。岡谷選手にとってもピレリにとってもデビューイヤーで開幕から 2 連勝と快挙を成し遂げピレリタイヤのパフォーマンスを見せつけた。

GP2 決勝は岩崎選手はミディアムソフトをチョイスし 11 番手、三原選手はソフト系のコンパウンドを使用し 14 番手のポジションから決勝スタート。オープニングラップから複数台が転倒するが三原選手はスタートでジャンプアップしオープニングラップを 7 位で通過。一方岩崎選手も 10 位で通過。その後 4 周目にも複数台が転倒し赤旗中断、荒れたレースとなる。再レースは 13 周でのレースとなり、グリッドは当初のスタート時のままとなる為、ピレリ勢の二人のライダーは 4 列目、5 列目からのスタートとなる。再スタート後もオープニングラップで 1 台が転倒。岩崎選手は 8 位、三原選手は 9 位で通過。その後 6 周目には岩崎選手は 1 つポジションを上げ 7 位に、その直後に 2 位を走行中のマシンが転倒し岩崎選手は 6 位にポジションアップ。後半に激しい 5 位争いを制した岩崎選手はそのままチェッカー。終盤まで安定した性能を発揮するピレリタイヤの耐久性が証明された。また三原選手も一つポジションを上げ 8 位でチェッカーとなる。

そして迎えた JSB、ピレリ勢のグリッドは第一レースと同様の位置からのスタートとなる。ピレリ勢は 3 人ともソフト系のコンパウンドをチョイス。オープニングラップは高橋選手が 3 位、清成選手はスタートで出遅れ 8 位、星野選手は一つポジションを上げ 10 位で通過。序盤高橋選手は単独 3 位を走行するがその後後続に抜かれ 5 位となる。一方清成選手はさらに順位を落とし 9 位を走行。星野選手は 11 位を走行す

る。後半に入り高橋選手は 1 分 28 秒台後半で安定して走行し最終的に 6 位でチェッカー。清成選手は前
を行く車両を追い続け 9 位をキープしたままゴール。星野選手は懸命にプッシュするも徐々にポジション
を落とし 14 位でゴール。高橋選手はこの時点でランキング 4 位を維持。ピレリタイヤの日本各地のサー
キットでの安定した性能が証明された。

*レースデータ

日程：2018 年 6 月 16 日(土)公式予選/ JSB クラス第 1 レース

2018 年 6 月 17 日(日)決勝レース

開催クラス：JSB1000/ GP2/ GP3

サーキット：スポーツランド SUGO 全長 3,737.5m

周回数：JSB 25 周/ GP2 13 周（赤旗一時中断で減算）/GP3 17 周（赤旗一時中断で減算）

決勝レースリザルト：

*JSB クラス第 1 レース

MORIWAKI MOTUL RACING 高橋裕紀選手 8 位

MORIWAKI MOTUL RACING 清成龍一選手 7 位

TONE RT SYNCEDGE 4413 星野知也選手 23 位

*JSB クラス第 2 レース

MORIWAKI MOTUL RACING 高橋裕紀選手 6 位

MORIWAKI MOTUL RACING 清成龍一選手 9 位

TONE RT SYNCEDGE 4413 星野知也選手 14 位

*GP2 クラス

OGURA CLUTCH WITH RIDE IN 岩崎哲朗選手 5 位

TONE RT SYNCEDGE 4413 三原壮紫選手 8 位

*GP3 クラス

MORIWAKI CLUB 岡谷雄太選手 **優勝**

